

平成28年 7月15日
九州地方整備局 武雄河川事務所

【平成28年6月22日出水関連】

六角川治水対策の整備効果

～これまでの「河川改修」と「排水機場」等の整備により浸水家屋が激減～

6月22日から23日にかけて、梅雨前線が九州北部で停滞し、佐賀県でも各地で大雨となり、六角川では**氾濫危険水位を超過**する洪水となりました。

今回の出水規模は、昭和55年8月洪水(越水や堤防決壊等により浸水戸数4,835戸)と同規模程度でしたが、堤防整備や河道掘削などにより、**浸水戸数は約1/100に減少**しました。(4,835戸 → 46戸)

また、近年では内水による浸水被害が発生した平成5年8月洪水(浸水戸数876戸)と同規模程度でしたが、排水機場の増強等により、**浸水戸数は約1/20に減少**しました。(876戸 → 46戸)

なお、近年最大洪水である平成2年7月洪水に対応するため、引き続き計画的に治水対策に取り組んでまいります。

■治水対策の経過

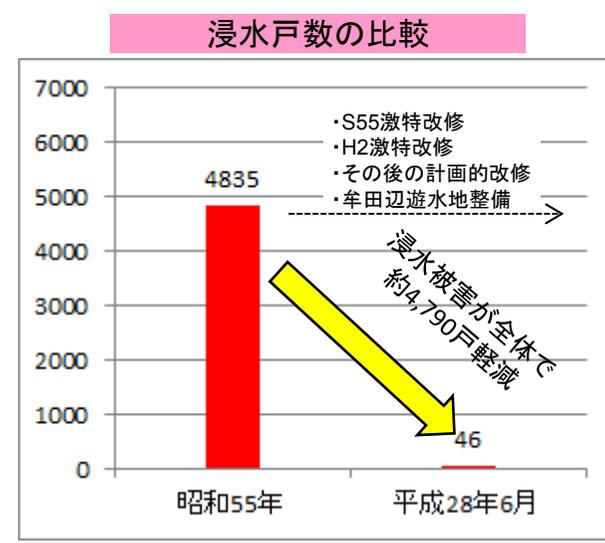
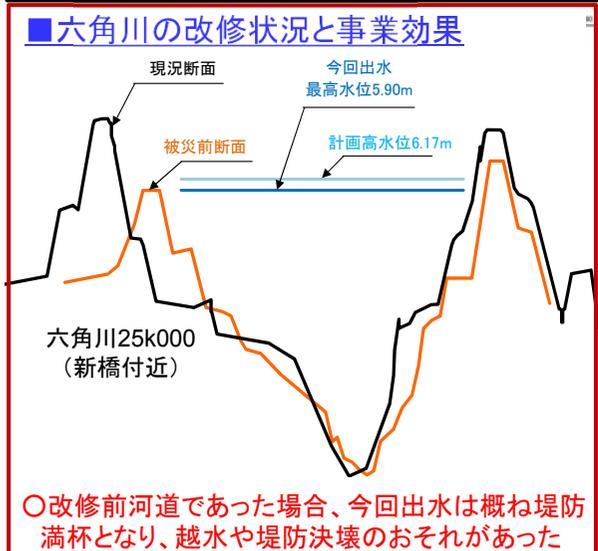
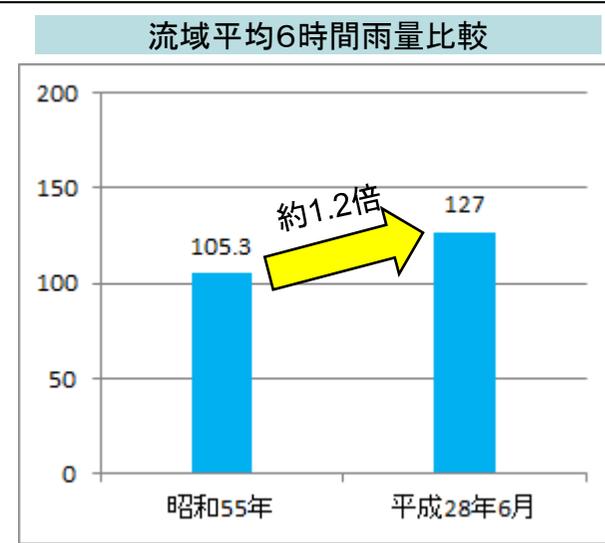
- ・昭和55年8月及び平成2年7月洪水をうけ、2度にわたり「河川激甚災害対策特別緊急事業」(激特事業)を実施
- ・その後も計画的に河川整備や内水対策を実施
 - 河川改修 : 堤防整備、河道掘削、橋梁架替等により河川の流下能力を向上
 - 内水対策 : 排水機場の整備を進め排水能力を平成5年の約5倍に増強

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所
技術副所長 杉町 英明(すぎまち ひであき)
調査課長 高場 紀好(たかば のりよし)
TEL 0954-23-5151(代表)

治水事業の効果(河道整備による被害軽減効果)

- 平成28年6月洪水は、堤防決壊や越水、内水等で約5,000戸が浸水した昭和55年8月洪水と同規模の洪水。
- 過去2度の激甚災害対策特別緊急事業やその後の河道改修、排水機場等の整備効果により、昭和55年洪水より6時間雨量は多かった(約1.2倍)ものの、**浸水戸数は1/100以下に減少。(4,835戸 → 46戸)**
- 近年最大洪水の平成2年7月洪水に対応するためには、今後も計画的な治水対策が必要。

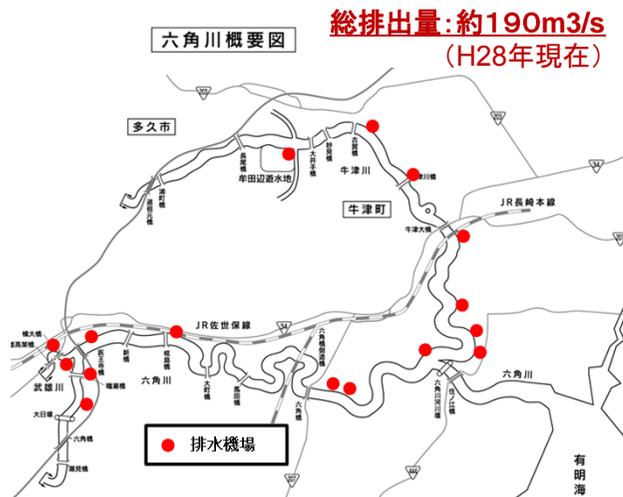


治水事業の効果 (排水施設による被害軽減効果)

ろっかくがわ
六角川

- 平成28年6月洪水は、内水氾濫による浸水被害が発生した近年洪水としては、平成5年8月洪水と同規模。
- 平成5年以降の排水機場の整備により、当時の**9機場(40m³/s)**から現在までに**16機場(190m³/s)**に増強。
- 今回洪水は、平成5年8月洪水より雨量が多かった(約1.2倍)ものの、**浸水戸数は約1/20に減少(876戸→46戸)**

現況の排水機場の位置図

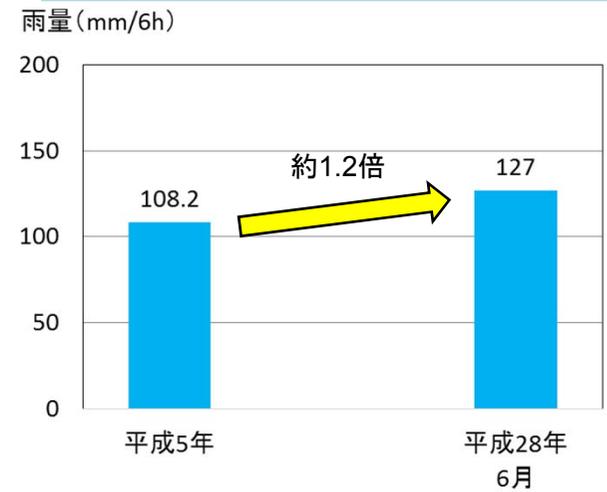


平成5年8月洪水の状況

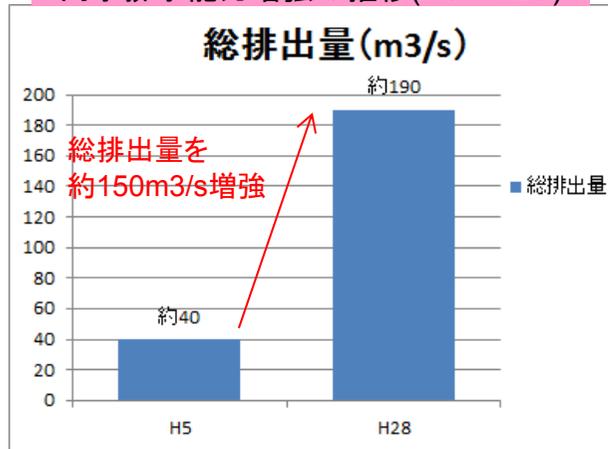


武雄市高橋地区の浸水状況

流域平均6時間雨量比較(H5、H28)



内水排水能力増強の推移(H5→H28)



排水機場の稼働状況(H28.6)



武雄市東多久町別府 排水状況

浸水戸数の比較(H5、H28)

